

Sun Java Enterprise System 6 製品の 相互運用性

2009年4月

このドキュメントは、Java ES チームによって管理されています。

このドキュメントでは、Java ES の中核的オファリングである Sun Java Enterprise System (Java ES) 6 Base 製品の相互運用性について説明しています。そのほかの Java ES 6 のオファリング (たとえば、各種の JavaES スイートなど) については、sun.com/software/javaenterprisesystem を参照してください。

「相互運用性」という用語は、2つの製品を競合せずに運用できることを指します。相互運用性の例としては、次のものが挙げられます。

- 共存: 2つの製品を同じシステムにインストールして実行でき、その場合に一方の製品がもう一方の製品の運用に干渉しません。
- データの共有: 2つの製品を同じデータストア上で運用できます。その際に各製品がほかの製品による変更を無効にしたり、ほかの製品の運用に干渉したりしません。
- 依存性: 別の製品を必要とする製品が、それぞれほかの製品の運用に干渉せずに、必要な製品を使用できます。たとえば、特定の Web アプリケーションを特定の Web コンテナに配備でき、Web アプリケーションと Web コンテナの両方が正常に動作します。

このドキュメントでは、2つの製品の共存がなんらかの制限や制約を受けるか、共存に特殊な設定が必要になる場合を除き、共存について特に説明しません。

このドキュメントでは、Java ES 6 Base 製品の相互運用性について、次の2種類の情報を提供します。

- リリース主導の相互運用性 — Java ES 6 リリースの製品バージョン間相互の連携動作については、「[2 ページの「Java ES 6 製品バージョンの相互運用性」](#)」を参照してください。
- 下位互換 - Java ES 6 の各製品とその製品自体の以前のバージョンとの連携動作、および依存する製品の以前のバージョンとの連携動作については、「[4 ページの「Java ES 6 製品バージョンの下位互換」](#)」を参照してください。

Java ES 6 製品バージョンの相互運用性

次の表は、Java ES 6 Base 製品の相互運用性に関する要約です。この表を使用するには、まず関心のある製品の行を特定してから、その製品と Java ES 6 のほかの製品との交差部分を見てください。ここにどう書かれているかによって相互運用性を確認できます。「Yes」なら該当する製品との相互運用があり、「No」なら相互運用性はありません。空白なら、該当する製品との相互作用なしです。「Yes」または「No」に続く番号は、相互運用性に関して該当する注釈 ([3 ページの「相互運用性に関する注釈」](#)) があることを示しています。

この表からわかるのは、1組の製品間の相互運用性に関する情報だけです。製品間に生じる可能性のある一般的な問題に関する情報は、この表では確認できません。相互運用性と機能の可用性について概要を完全に把握するには、この表とともに目的の製品のリリースノートを使用してください。

Java ES 6 製品を多数掲載できるように、製品に対応する略語を使用しています。たとえば、次に示す略語があります。

略語	製品
DSEE 6.3.1	Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3.1
GFES 2.1	Sun GlassFish Enterprise Server 2.1
GFWS 1.4	Sun GlassFish Web Stack 1.4
GFWS 10.0	Sun GlassFish Web Space Server 10.0
IdM 8.0	Sun Identity Manager 8.0
JCAPS 6U1	Sun Java Composite Application Platform Suite (Java CAPS) 6 Update 1

略語	製品
MQ 4.3	Sun Java System Message Queue 4.3
OSSOE 8.0	Sun OpenSSO Enterprise 8.0
SC 3.2 1/09	Solaris Cluster 3.2 1/09 (Solaris Cluster Agents および Solaris Cluster Geographic Edition を含む)
WPS 4.0.8	Sun Java System Web Proxy Server 4.0.8
WS 7.0U4	Sun Java System Web Server 7.0 Update 4

Sun GlassFish Web Stack、Sun Identity Manager および Java CAPS は、Java ES Base のオフラインには含まれていないので注意してください。ただし、これらの製品の相互運用性についても情報を提供します。これは、より広範な Java ES プログラムの下でこれらの製品が Sun Java System スイートによって提供されるためです。

表1 Java ES 6 製品バージョンの相互運用性

	DSEE 6.3.1	GFES 2.1	GFWSS 10.0	MQ 4.3	OSSOE 8.0	SC 3.2 1/09	WPS 4.0.8	WS 7.0U4
DSEE 6.3.1	—	Yes (1)	Yes	Yes	Yes	Yes		No (1)
GFES 2.1	Yes (1)	—	Yes (2)	Yes	Yes	Yes	Yes (3)	Yes (3)
GFWSS 10.0	Yes	Yes (2)	—		Yes		Yes	No
MQ 4.3	Yes	Yes		—	Yes	Yes		Yes
OSSOE 8.0	Yes	Yes	Yes	Yes	—		Yes	Yes
SC 3.2 1/09	Yes	Yes		Yes		—	Yes	Yes
WPS 4.0.8		Yes (3)	Yes		Yes	Yes	—	Yes (3)
WS 7.0U4	No (1)	Yes (3)	No	Yes	Yes	Yes	Yes (3)	—
GFWS 1.4	Yes (1)	Yes (3)	Yes	Yes	Yes		Yes (3)	Yes (3)
IdM 8.0	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes		Yes	No (4)
JCAPS 6U1	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes		Yes	No (4)

相互運用性に関する注釈

- DSEE 6.3.1** と **Web** コンテナ。Directory Server Enterprise Edition の Directory Server Control Center コンポーネントは、Web コンテナに配備する必要があります。GlassFish Enterprise Server および Apache Tomcat (GlassFish Web Stack の一部) 上での配備はサポートされていますが、Web Server 上での配備はサポートされません。Directory Server Enterprise Edition のほかのコンポーネントは、Web コンテナと相互作用しないので、Web コンテナとの間の相互運用性は問題となりません。
- GFES 2.1** と **GFWSS 10.0**。GlassFish Enterprise Server の Security Manager の実行中は、GlassFish Web Space Server が GlassFish Enterprise Server に正しくインストールされません。この問題の回避方法については、『『Sun Java Enterprise System 6 リリースノート』の「GlassFish Enterprise Server と Web Space Server: GlassFish Enterprise Server で Security Manager が有効になっている場合、Web Space Server のインストールに特殊な構成が必要になる (6771720, 6813015)』」を参照してください。
- Web** サーバー、コンテナ、およびプロキシの共存。Web サーバー、コンテナまたはプロキシのどれか2つを同じシステムにインストールする場合、2つの製品が業界標準ポート上で同じリスナーサービス(たとえば、ポート 80 にバインドされた HTTP リスナーサービス)を提供しようとしてもポートの競合が発生しないことを確認する必要があります。共存によってこのようなポートの競合が発生すると考えられる製品は、次のとおりです。
 - GlassFish Enterprise Server
 - Web Proxy Server
 - Web サーバー

- GlassFish Web Stack (Apache Server や Apache Tomcat など、一部のコンポーネント)
4. **IdM 8.0/JCAPS 6U1**、および **WS 7.0U4**。Identity Manager と Java CAPS はいずれも、Web サーバーを Web コンテナとしてはサポートしません。ただし、サービスおよび管理インタフェースがサポート対象の Web コンテナに配備されている場合には、両製品のサービスおよび管理インタフェースを Web サーバーの逆プロキシプラグイン機能で使用できます。

Java ES 6 製品バージョンの下位互換

以降の節では、Java ES 6 の各製品の下位互換について説明するとともに、該当の製品自体の従来バージョンとの互換性、および動作するうえで依存する製品の従来バージョンとの互換性を取り上げます。

- 4 ページの「[Solaris Cluster 3.2 1/09 と Solaris Cluster Geographic Edition 3.2 1/09](#)」
- 4 ページの「[Sun GlassFish Enterprise Server 2.1](#)」
- 5 ページの「[Sun GlassFish Web Space Server 10.0](#)」
- 5 ページの「[Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3.1](#)」
- 5 ページの「[Sun Java System Message Queue 4.3](#)」
- 6 ページの「[Sun Java System Web Proxy Server 4.0.8](#)」
- 6 ページの「[Sun Java System Web Server 7.0 Update 4](#)」
- 6 ページの「[Sun OpenSSO Enterprise 8.0](#)」

Solaris Cluster 3.2 1/09 と Solaris Cluster Geographic Edition 3.2 1/09

Solaris Cluster 3.2 1/09 は、従来バージョンの Solaris Cluster との互換性がありません。クラスタ内のノードはすべて、同じバージョンの Solaris Cluster を実行している必要があります。

Solaris Cluster Geographic Edition 3.2 1/09 は、従来バージョンの Solaris Cluster Geographic Edition との互換性がありません。Solaris Cluster クラスタ内のノードはすべて、同じバージョンの Solaris Cluster Geographic Edition を実行している必要があります。

Solaris Cluster が依存する製品

Solaris Cluster は、ほかの Java ES 製品には依存しません。

Solaris Cluster Geographic が依存する製品

Solaris Cluster Geographic Edition が依存する Java ES 製品は、Solaris Cluster のみです。

Solaris Cluster Geographic Edition 3.2 1/09 は、次のバージョンの Solaris Cluster でサポートされています。

- Solaris Cluster 3.2 2/08
- Solaris Cluster 3.2 1/09

Sun GlassFish Enterprise Server 2.1

Sun GlassFish Enterprise Server 2.1 は、Sun Java System Application Server versions 9.1、8.2、8.1、8.0 および 7.x とのバイナリ互換があります。

Application Server 9.1 上で動作する Java アプリケーションは、GlassFish Enterprise Server 2.1 上で動作します。同様に、Application Server バージョン 8.2、8.1、8.0 および 7.x 上で動作する Java アプリケーションも互換性のない場合を除き、GlassFish Enterprise Server 2.1 上で動作可能です(『[Sun GlassFish Enterprise Server 2.1 Upgrade guide](#)』の第 1 章「[Application Server Compatibility Issues](#)」の説明を参照)。

GlassFish Enterprise Server が依存する製品

次の表に、GlassFish Enterprise Server 2.1 が依存する Java ES 製品の互換性情報を示します。

製品	依存性の種類	サポートされるバージョン
Message Queue	必須の依存性: 信頼性の高い非同期メッセージングを実現します。	バージョン 4.3 (GlassFish Enterprise Server 2.1 に付属)
Web サーバー	オプションの依存性: インスタンス間の負荷分散を実行します。	バージョン 6.1/7.0、および 6.1/7.0 との下位互換を持つ 6.1/7.0 以降のマイナーバージョン

Sun GlassFish Web Space Server 10.0

バージョン 10.0 は、Sun GlassFish Web Space Server の最初のリリースであるため、下位互換の情報は不要です。

GlassFish Web Space Server が依存する製品

次の表に、GlassFish Web Space Server 10.0 が依存する Java ES 製品の互換性情報を示します。

製品	依存性	サポートされるバージョン
GlassFish Enterprise Server	必須の依存性: J2EE Web コンテナの実行時サービスを提供します。	バージョン 2.1
OpenSSO Enterprise	オプションの依存性: 認証/承認サービスを提供します。	バージョン 8.0

Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3.1

Directory Server Enterprise Edition 6.3.1 は一般的に、Directory Server Enterprise Edition バージョン (バージョン 6.0 まで) との互換性を備えています。その場合でも若干の互換性の制約が伴います。Directory Server、Directory Proxy Server、Identity Synchronization for Windows、Directory Server Resource Kit、および Directory Editor の互換性の詳細については、『[『Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3.1 Release Notes』](#)の第 1 章「Compatibility Issues」」を参照してください。

プラグイン API の互換性については、『[『Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3 Developer's Guide』](#)』の第 2 章「Changes to the Plug-In API Since Directory Server 5.2」および第 3 章「Changes to the Plug-In API From Directory Server 4 to Directory Server 5.2」」を参照してください。

Directory Server Enterprise Edition が依存する製品

Directory Server Enterprise Edition は、ほかの Java ES 製品の 1 つである GlassFish Enterprise Server に依存します。この依存性は、J2EE Web コンテナに配備する必要がある Directory Service Control Center (DSCC) に適用されます。DSCC は複数の J2EE Web コンテナをサポートしているので、GlassFish Enterprise Server への依存性はオプションです。Directory Server Enterprise Edition 6.3.1 において DSCC バージョンは、次に示すバージョンの GlassFish Enterprise Server、およびその先行バージョンである Sun Java System Application Server をサポートしています。

- Sun GlassFish Enterprise Server 2.1
- Sun Java System Application Server 8.2 またはそれ以降

Sun Java System Message Queue 4.3

Message Queue 4.3 は一般的に、Message Queue バージョン (バージョン 3.6 まで) との互換性を備えています。若干の互換性の制約が伴います。ブローカ、クライアント、管理対象オブジェクト、および管理ツールの互換性の詳細については、『[『Sun Java System Message Queue 4.3 Installation Guide』](#)の「Compatibility Issues」」を参照してください。

Message Queue 4.3 が提供する公開インタフェースの安定性については、『[『Sun Java System Message Queue 4.3 Administration Guide』](#)の付録 B「Stability of Message Queue Interfaces」」を参照してください。

Message Queue が依存する製品

Message Queue の場合、ほかの Java ES 製品に対する依存性は必須ではありませんが、必要に応じてほかの一部の Java ES 製品を使用することにより拡張機能の利用を可能にしています。このような Message Queue 4.3 に関するオプションの依存性の情報を、次の表に示します。

製品	拡張機能	サポートされるバージョン
Directory Server	管理対象オブジェクトおよびユーザーデータを、ローカルにではなく LDAP ディレクトリに格納	バージョン 6.0、および 6.0 との下位互換を持つ 6.0 以降のマイナーバージョン
GlassFish Enterprise Server	クライアントとブローカ間の HTTP メッセージングのサポート	バージョン 2.1
Solaris Cluster	高可用性サポートの提供	バージョン 3.2、および 3.2 との下位互換を持つ 3.2 以降のマイナーバージョン
Web サーバー	クライアントとブローカ間の HTTP メッセージングのサポート	バージョン 7.0 Update 3、および 7.0 Update 3 との下位互換を持つ 7.0 Update 3 以降のアップデート

Sun Java System Web Proxy Server 4.0.8

Web Proxy Server 4.0.8 は、Web Proxy Server バージョン (4.0 まで) との下位互換があります。

Web Proxy Server が依存する製品

Web Proxy Server の場合、ほかの Java ES 製品に対する依存性は必須ではありませんが、必要に応じて Directory Server (Directory Server Enterprise Edition) を使用することにより LDAP ベースの認証を可能にしています。Directory Server を使用している場合、Web Proxy Server 4.0.8 で Directory Server バージョン 5.2 および 6.x がサポートされます。

Sun Java System Web Server 7.0 Update 4

Web Server 7.0 Update 4 は、Web Server バージョン (7.0 まで) との下位互換があります。

Web Server が依存する製品

Web Server の場合、ほかの Java ES 製品に対する依存性は必須ではありませんが、必要に応じて Directory Server (Directory Server Enterprise Edition) を使用することにより LDAP ベースの認証を可能にしています。Directory Server を使用している場合、Web Server 7.0 Update 4 で Directory Server バージョン 6.x がサポートされます。

Sun OpenSSO Enterprise 8.0

8.0 は OpenSSO Enterprise の最初のリリースですが、その先行製品である Sun Java System Access Manager のバージョンとの互換性が確保されています。具体的な情報は次のとおりです。

- OpenSSO Enterprise 8.0 は、すべての Access Manager 7.1 および Access Manager 7 2005Q4 の既存機能 (たとえば、フル SDK やクライアント SDK API) に対する下位互換をサポートしています。次のリリースに対しては、下位互換がサポートされていません。
 - Access Manager 6 2005Q1 (6.3) およびそれ以前のリリース。
 - Liberty ID-FF スキーマのメタデータ: Directory Server 内の Access Manager または Federation Manager のスキーマをアップグレードしないかぎり、Liberty ID-FF プロファイルは機能しません。
- OpenSSO Enterprise 8.0 は、OpenSSO Enterprise および Access Manager 7.1 の各インスタンスが同じ Directory Server スキーマにアクセスする場合にかぎり、Access Manager 7.1 と共存できます。この共存が発生するのは通常、Access Manager 7.1 の複数インスタンスが同じ Directory Server スキーマにアクセスしていて、順次に更新される場合です。次のリリースに対しては、共存がサポートされていません。

- Access Manager 7 2005Q4
- Access Manager 6 2005Q1 (6.3) およびそれ以前のリリース
- Federation Manager 7.0

下位互換の詳細については、『『Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Upgrade Guide』の「Backward Compatibility with OpenSSO Enterprise 8.0」』を参照してください。

共存の詳細については、『『Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Upgrade Guide』の「Coexistence with OpenSSO Enterprise 8.0」』を参照してください。

OpenSSO Enterprise が依存する製品

OpenSSO Enterprise の場合、ほかの Java ES 製品に対する依存性は必須ではありませんが、必要に応じて複数の Java ES 製品を使用して Web コンテナに対する必須の依存性条件を満たし、ほかの Java ES 製品を使用して拡張機能の利用を可能にしています。このような OpenSSO Enterprise 8.0 に関するオプションの依存性の情報を、次の表に示します。

製品	依存性	サポートされるバージョン
Directory Server Enterprise Edition	OpenSSO Enterprise は必要に応じて LDAP Server を使用して、構成データの保管を可能にしています。	バージョン 5.2、6.0、6.2、6.3 および 6.3.1
	OpenSSO Enterprise は必要に応じて LDAP Server を使用して、ユーザーデータの保管を可能にしています。	バージョン 6.3 および 6.3.1
GlassFish Enterprise Server	OpenSSO Enterprise には Web コンテナが必要です。	Version 2.1 のほか、Sun Java System Application Server バージョン 9.1 Update 1 および Update 2
Message Queue	セッションフェイルオーバー機能が有効な場合、OpenSSO Enterprise には Message Queue が必要です。	バージョン 4.1、および 4.1 との下位互換を持つ 4.1 以降のマイナーバージョン
Web サーバー	OpenSSO Enterprise には Web コンテナが必要です。	バージョン 7.0 Update 3 および Update 4

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Sun Microsystems, Inc. は、この文書に記載された製品に含まれるテクノロジーに関する知的財産権を保持しています。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。それらに限定されるものではありません。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPEN LOOK および SunTM Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト（輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含むが、それらに限定されない）に指定された団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示的保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

821-0012-10

Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A.

